

仏陀 ブッタ 463? ~ 383? B.C.

仏教の開祖。生没年については異説が多く、没年を紀元前 544 年か 543 年とする南方仏教の説、前 486 年頃とする大乘仏教の説、前 383 年頃とする学者(日本・欧米)の説等がある。

伝説によると、仏陀はインド北部のヒマラヤ山麓(現在ネパール)を治めていた釈迦族の王・浄飯王(じょうぼんおう)と麻耶(まや)夫人の間に生まれた。ゴータマ・シッダールタ(Gotama Siddhattha)と呼ばれた彼は、生まれながらに幸福を約束された身分であったが、それを退け 29 歳のときに出家した。ただひとり瞑想修行し内面的苦闘の結果、35 歳で悟りを得、この時から自らを「悟った者」「めざめた者」という意の「仏陀(buddha)」と称した。

仏陀は 45 年の間布教を行い、強い感化力で周囲の人々に影響をおよぼした。彼は 80 歳で入滅したが、その教えは時代や場所をこえてアジア大陸全体に広がり、西洋にも影響をおよぼす世界的な宗教となっている。

Great Books 01 大乘仏典(だいじょうぶつてん)

45 年にわたる仏陀の説法は、「対機説法」「応病与薬」と言われる。聞き手にわかるように、あるときは易しく、あるときは難しく説かれた。仏陀が自ら書いた経はなく、語り伝えられた説法は、弟子たちによってパーリ語やサンスクリット語で記録された。

仏陀の教えは大乘と小乗の二つに分けられる。パーリ語で書かれた経は、小乗の教えを説いたものが多く、自分一人で悟りをひらいていく教えであって、現在スリランカ・ミャンマー・タイ・カンボジアなどに伝えられている。サンスクリット語で書かれた経は、大乘の教えを説いたものが多い。すべての人が悟りをひらき「苦」から解放されねばならないという教えで、現在、ネパール・チベット・中国・朝鮮・日本などに伝えられている。なお、中国から朝鮮を経て日本に伝わっている経は漢文に翻訳されたものだが、サンスクリット語からの音訳的な言葉も多く使われている。

経の中で「大乘」の言葉が初めて説かれたのは、「大般若波羅蜜多経」である。玄奘三蔵(げんじょうさんざう)が 4 年の歳月をかけて訳した 600 巻からなる般若經典類を集大成した一大叢書で、大蔵経の経部の三分の一を占めている。「大乘」はサンスクリット語でマハーヤーナという。マハは大きいという意味で摩訶の字をあて、ヤーナは乗り物の意味である。

数多くの大乘仏典の中で、聖徳太子が注釈を書いた「維摩(ゆいま)経」「勝鬘(しょうまん)経」「法華経」を「三経義疏(さんぎょうぎしょ)」という。そのほかに「華嚴経」「般若経」「金光明経」「大無量寿経」「観大無量寿経」「阿弥陀経」なども名高い。

Key Word 四諦八正道(したいはっしょうどう)

35 歳で悟りを得た仏陀の初めての説法が四諦八正道であり、仏教の根本の教えとされている。生きていることは「苦」であるという考えを具体的に示し、「苦」からの解放を説いたもので、「四諦」の「諦」という字の語源は「道理を明らかにする」という意味であって、「真理」や「悟り」を表している。

さて、「四諦」とは仏陀の説いた四つの真理「苦諦」「集諦」「滅諦」「道諦」のことをいう。このうち「苦諦」は、現世は生・老・病・死の四苦と、愛別離苦・怨憎会苦・求不得苦・五取蘊苦の四苦を加えた八苦であるという真理を説いたもので、その現世の「苦」の原因は人間が無常を認識できないからだと述べているのが「集諦」である。そして、「滅諦」とは物事への欲望と執着をなくせば理想の境地「涅槃」につながるという教えであり、その「涅槃」に到達するための修行法が「道諦」ということになる。

仏陀は「道諦」をさらに詳しく説いて、八つの修行法も定めた。これがいわゆる「八正道」であり、具体的にいえば、正見(正しい見解) 正思惟(正しい決意) 正語(正しい言葉) 正業(正しい行為) 正命(正しい生活) 正精進(正しい努力) 正念(正しい思念) 正定(正しい瞑想)の修行のことである。

仏陀は、この四つの真理(四諦)を熟知し、中道(八正道)を実践すれば、一切の苦しみから解脱できるとした。つまりこの道理は、生きとし生けるものはすべて消滅し、創造主によって造られたものは存在しないということを意味しているのである。

◆ *Great Books* 文献案内

- 📖 大乘仏典 第1～30巻 中国・日本編 / 長尾雅人(ほか監修)
中央公論社 1987～1996年刊 <183/28-2/1～30>
- 📖 人類の知的遺産3 ゴータマ・ブッダ / 早島鏡正(著)
講談社 1979年刊 384, 6p <280.8/13/3> 資料番号 10497113
- 📖 大乘仏典 第1～15巻 / 長尾雅人(ほか監修)
中央公論社 1973年～1976年刊 <183/28/1～15>
- 📖 世界の名著2 大乘仏典 / 長尾雅人(編)
中央公論社 1967年刊 558p <080/5/2> 資料番号 12784203
- 📖 南傳大藏經 第1～65巻 / 高楠博士功績記念会(編)
大蔵出版 1935～1941年刊 <183/18/1～65> 常置
- 📖 大正新脩大藏經圖像 第1～12巻 / 大蔵出版(編)
大蔵出版 1932～1934年刊 <183/10/1～12> 常置
- 📖 大正新脩大藏經 第1～85巻 別巻第1～3巻 / 大正一切經刊行会(編)
大正一切經刊行会 1924～1932年刊 <183/9/1～88> 常置

◆ 理解を深めるために 参考文献案内

- 📖 逆引仏教語辞典 / 逆引仏教語辞典編纂委員会(編著)
柏書房 1995年刊 296, 247, 28p
<180.33/6> 常置(相談室) 資料番号 21408604
- 📖 ブッダ入門(仏教入門シリーズ) / 中村元(著)
春秋社 1991年刊 221p <182.2Z/11> 資料番号 20376513
- 📖 仏教語読み方辞典 / 有賀要延(編著)
国書刊行会 1989年 1153p <180.3/49> 常置(相談室) 資料番号 20091518
- 📖 平川彰著作集 第1～17巻 / 平川彰(著)
春秋社 1988～2000年刊 <180.8/35/1～17>
- 📖 中村元選集 第1～32巻 別巻第1～8巻 / 中村元(著)
春秋社 1988～1999年刊 <121.9/171>
- 📖 佛教大事典 / 古田紹欽(ほか監修)
小学館 1988年刊 1111, 30p <180.3/47> 常置(相談室) 資料番号 10261162
- 📖 図説佛教語大辞典 / 中村元(編著)
東京書籍 1988年刊 760p <180.3/44> 常置(相談室) 資料番号 10261113
- 📖 総合佛教大辞典 上・下・索引 叢書目録 / 総合仏教大辞典編集委員会(編)
法蔵館 1987年刊 <180.3/46/1～3> 常置(相談室)
- 📖 原始仏典 第1～10巻 / 梶山雄一(ほか編)
講談社 1985～1986年刊 <183/59/1～10>
- 📖 講座・大乘仏教 1～10 / 平川彰(ほか編)
春秋社 1981～1996年刊 <181.1/11/1～10>
- 📖 佛書解説大辞典 第1～13巻 別巻 著者別書名別目録 / 小野玄妙(編纂)
大東出版社 1965～1988年刊 <180.3/9/1～15> 常置(相談室)
- 📖 望月佛教大辞典 第1～10巻 / 望月信亨(著) 塚本善隆(校訂)
世界聖典刊行会 1954～1963年刊 <180.3/53/1～10> 常置(相談室)